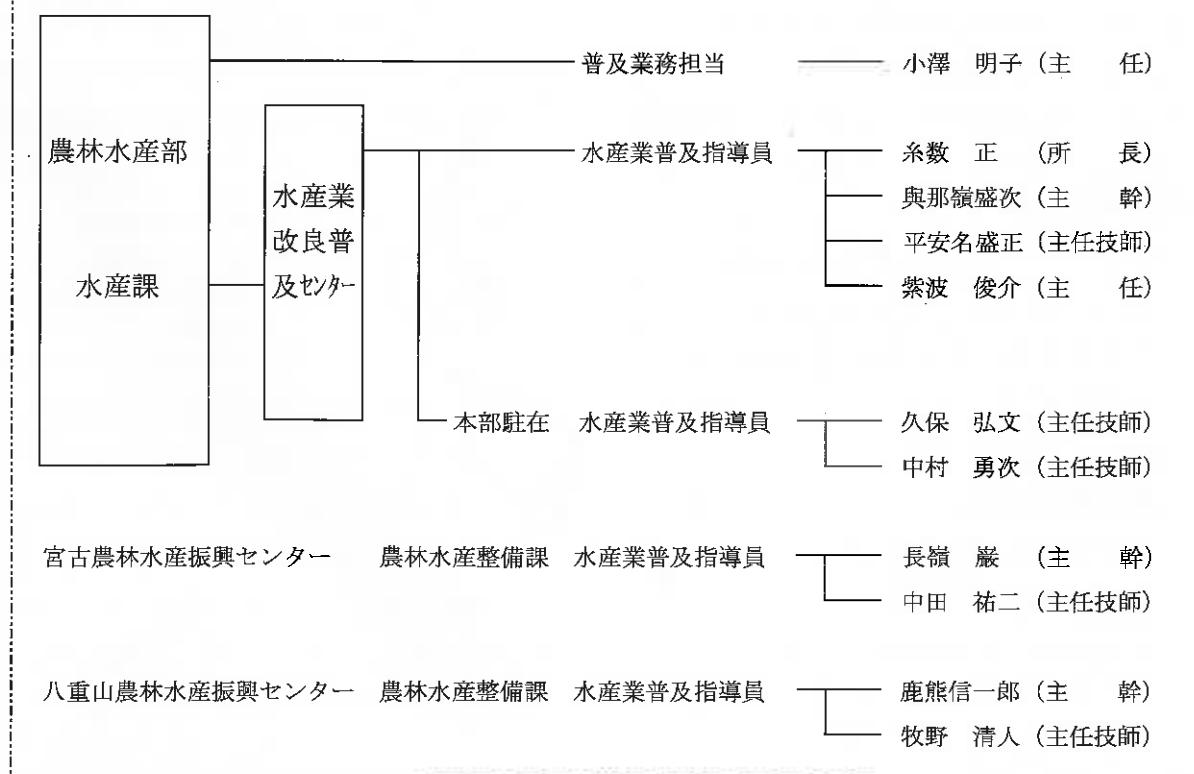


沿革

- 昭和 47 年 5 月 当初各市町村に水産技術員が置かれていたが本土復帰と同時に水産庁より水産業改良普及制度が導入され、水産業専門技術者が 2 名、水産業改良普及員が沖縄本島に 8 名（駐在：水産試験場）、宮古に 3 名、（駐在：宮古支庁農林水産課）、八重山に 2 名（駐在：八重山支庁農林水産課）配置された。
- 昭和 50 年 3 月 糸満市西崎町に庁舎新築、名称が漁業者センターとなり普及員が駐在。
- 昭和 55 年 4 月 漁業者センターを「かい」に指定。所長は専門兼務。
- 昭和 57 年 4 月 水産業専門技術員 2 名、水産業改良普及員 10 名となる。
- 昭和 60 年 4 月 組織改正により「漁業者センター」から「沖縄県水産業改良普及所」に名称変更。
- 昭和 60 年 12 月 増築により実習室兼展示室、図書室、事務室が完成現在に至る。
- 平成 6 年 4 月 水産業改良普及所・本部駐在設置。専技 1 名、普及員 1 名配置。
- 平成 13 年 4 月 組織改正により沖縄県水産試験場と統合、沖縄県水産試験場普及センターに名称変更。
- 平成 17 年 4 月 機構改革により沖縄県水産業改良普及センターに名称変更。水産試験場は農林水産部から企画部に移行。制度改正により水産業改良普及員と水産業専門技術員が水産業普及指導員に一元化。普及指導員総数 11 名（普及センター 5 名、本部駐在 2 名、両支庁各 2 名）
- 平成 21 年 4 月 水産業改良普及センター 1 名定数削減により普及指導員総数 10 名となる。

平成 22 年度水産業改良普及事業推進体制



水産業普及指導組織区域担当



本部駐在北部地区担当

普及指導員 久保弘文

伊是名村 恩納村
 国頭村 宜野座
 今帰仁村 金武町
 東村

普及指導員 中村勇次

伊平屋村 名護市
 伊江村 大宜味村
 本部町

中南部地区担当

所長 糸数 正

北中城村 中城村
 南城市 (佐敷)
 豊見城市
 南北大東村

普及指導員 與那嶺盛次

うるま市
 (具志川・勝連)
 北中城村 北谷町
 西原町 与那原町
 南城市 (知念)
 渡名喜村

普及指導員 平安名盛正

うるま市
 (石川・与那城)
 沖縄市 糸満市
 座間味村 渡嘉敷村
 粟国村

普及指導員 紫波俊介

読谷村 宜野湾市
 浦添市 那覇市
 南城市 (玉城)
 八重瀬町 (具志頭)
 久米島町

宮古地区地区担当

普及指導員 長嶺 巖
 中田祐二

宮古島市 多良間村

八重山地区担当

普及指導員 鹿熊信一郎
 牧野清人

石垣市 与那国町
 竹富町